

5第19号陳情　ガザの即時停戦のための積極的外交活動を政府に要求する意見書の提出を求める陳情

受理年月日　令和5年11月24日

陳情者　東大和市向原2-808-9
東大和9条の会
呼びかけ人代表　池　享
東大和市湖畔3-916-1
安部　雅祥
東大和市中心2-1128-24
脇田　正子
東大和市蔵敷3-691-2　芝中住宅ロ2-501
鳥谷　靖
東大和市蔵敷3-852-10
大川　秀人

付託する委員会　総務委員会

陳情趣旨

イスラエルによるパレスチナガザ地区への地上侵攻や空爆に、日本と世界各地で怒りの声が広がっています。平和都市宣言を行っている東大和市議会が、ガザの即時停戦のための積極的外交活動を政府に要求する意見書を提出することを求めます。

陳情理由

- 1　10月7日のイスラム組織ハマスのイスラエルへのテロ攻撃に端を発したイスラエルの軍事行動でガザの死者は1万2千人（11月17日現在）、うち子供が41%、女性が25%です。
燃料や水、食料が不足し、病院や学校が砲撃され、国連職員や医師、ジャーナリストも命を落としています。
- 2　中東や欧州、日本をはじめ世界の各地でガザ即時停戦を訴えるデモが行われています。
- 3　国連総会（193か国）の特別緊急会合は10月27日、「人道的休戦」を12

1 か国の賛成で採択しました。総会決議は、イスラエルとハマスの名指しの批判は避けるものの、ガザ住民の危機的状況を解決するために人道的休戦を求めており、民間人保護、ハマ스에拉致された人質の即時解放など重要事項が盛り込まれています。

4 提案者となったヨルダンが「自衛権は免責の権利ではない」と強調しました、ハマスによる無差別攻撃が国際法に違反するという理由で、イスラエルの国際法違反の行為が「自衛権」の名で正当化されることにはなりません。

5 決議案は、罪のない子供らの命が奪われる事態を、とにかくやめさせるための当然の内容ですが、イスラエルや米国は反対しました。日本は棄権。米国の同盟国でもフランスやスペインなど少なくない国々が賛成しています。イスラエル・パレスチナ双方と良好な関係を持っており、停戦のために独自の働きをすべきだった日本の棄権は、アラブ諸国でも失望と批判を呼んでいます。

6 世界保健機構（WHO）のテドロス事務局長は11月10日、病院や救急車への攻撃が続く中「10分に1人の割合で子供が死んでいる。ガザの医療は崩壊寸前だ。ガザは安全ではない」と述べ、病院や民間人の保護を定めた国連人道法の遵守と停戦を要求しました。

国連のグテレス事務総長は11月14日、パレスチナ自治区ガザの複数の病院で「大規模に人命が失われている。人間性の名において、即時の停戦を」と呼びかけました。